

長崎県工業技術センターだより

CHALLENGE

2026年8月号

No.244

…… もくじ ……

巻頭言 _____ 1p

- 食品開発支援センターの最近の取り組み
(食品開発支援センター長)

新規事業紹介 _____ 2p

- 生産現場の「勘と経験」からの脱却及び新技術導入促進に関する研究
- 食品企業への品質管理技術活用による付加価値向上

トピックス _____ 4p

- 見学対応報告・研究キャラバン
- 新規事業（外部資金）の採択

研究会・セミナー報告 _____ 8p

工業技術センター便り _____ 11p

お知らせ _____ 12p

- 研究成果発表会の開催について（ご案内）
- 事業報告および研究報告の発刊
- 工業技術センターに係る人事異動
- 新規導入設備

食品開発支援センターの最近の取り組み

食品開発支援センター長 玉屋 圭

長崎県の食品製造業は、県内全製造業の中で事業所数・従業者数ともに 20%以上を占める重要な産業です。一方で、小規模事業所の割合が高く、製品の高付加価値化が課題となっています。このような状況を踏まえ、県は食品開発に関する総合的な支援拠点として、令和3年度に工業技術センター内に「食品開発支援センター」を設置しました。

食品開発支援センターは、県産食品素材を活用した高付加価値製品の試作・開発からテスト販売まで、入口から出口までを見据えた技術サービスを提供することで、食品製造業者や農商工連携に取り組む生産者を支援することを目的としています。主要業務である技術支援・研究開発に加え、商品コンセプト、デザイン、販売戦略など「売れる商品づくり」に必要な企画支援も、外部専門家と連携して実施しています。また、センターの食品加工棟で臨時営業許可を取得することで、新商品の試験製造が可能となる占有利用にも対応しています。

センター開設にあたり、技術支援の高度化を目的として、食品加工機器および分析機器計 75 機種を新規導入しました。導入機器の活用条件の検討、活用事例の蓄積を進め、技術サービスの向上を図ってきました。さらに、導入機器の利用促進のため、令和5年度までの3年間に計 13 回の機器紹介セミナーを開催し、乾燥、粉碎、レトルト殺菌などの加工技術や、粒度分布測定、アミノ酸分析などの分析技術を食品事業者へ紹介しました。令和6年度からは、事業者の要望に対応して、HACCP、異物混入対策などの衛生管理、アレルギー、食品添加物などの食品表示、保存料、包材などの日持ち向上技術についてのセミナーを開催しました。

また、開設からの5年間で 220 社以上の企業訪問・現地技術支援を行い、新製品開発や既存製品の改良などのニーズを把握することで、60 件の共同技術開発、616 件の試作につなげました。その結果、計 39 件の製品化を支援することができました。

設置から6年目を迎えた食品開発支援センターは、今後も技術相談、各種機器を用いた試作、共同技術開発などを通じて、県内食品事業者による高付加価値製品の開発を継続して支援していきます。新製品の開発、既存製品の改良、食品加工・分析技術の習得などの技術に関することや、商品づくりに必要な企画支援に関するご相談は随時受け付けておりますので、ぜひ食品開発支援センターへお問い合わせください。

生産現場の「勘と経験」からの脱却及び新技術導入促進に関する研究

事業名 経常研究

研究期間 令和8～10年度

担当者 機械加工科 大田 剛大、 福田 洋平、 田口 喜祥

県内の製造現場では、熟練技術者の退職や人手不足の進行に加え、コスト削減や新市場への参入といった課題への対応が求められています。しかし、多くの現場では依然として「経験と勘」に頼る部分が大きく、技術やノウハウの継承、生産性向上に向けたデータ活用が十分に進んでいません。

本事業では、鑄造、溶接、切削など県内ものづくり企業の生産現場を対象に、有効な製造データの取得・蓄積・分析手法の検討を行います。特に、生産現場で取得できる「スモールデータ」の活用に着目し、データ拡張技術や解析技術の開発を進めることで、現場の状況を定量的に把握し、品質向上や生産性向上につながる仕組みづくりを目指します。また、新規材料や新しい加工技術に関する調査やFS（フィージビリティスタディ）を実施し、企業単独では取り組みにくい新技術導入の課題解決を支援します。当センターが有する計測技術や分析ノウハウ、大学や国立研究機関との連携体制を活かし、実際の製造現場で効果を検証しながら、企業への技術移転と普及を図ります。

本事業により、製造現場の見える化とデータに基づく改善活動を推進し生産性の向上を図ります。さらに、県内企業の技術力維持・向上、新規事業創出の促進、人手不足への対応を通じて、長崎県製造業の競争力強化と持続的な成長に貢献します。

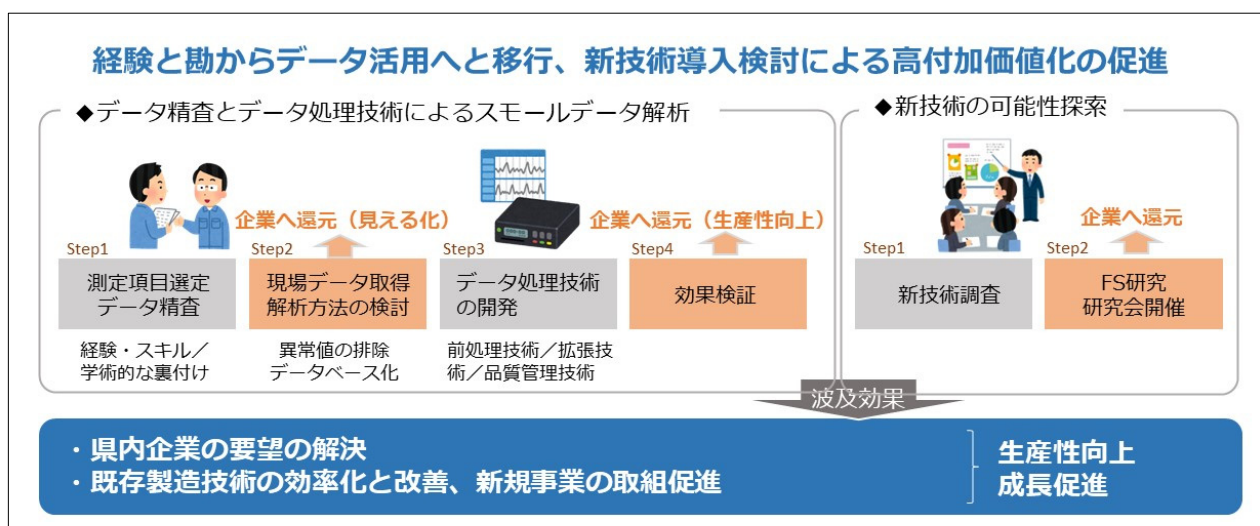


図 県内製造業の競争力強化と持続的な成長への貢献

食品企業への品質管理技術活用による付加価値向上

事業名 経常研究

研究期間 令和8～10年度

担当者 食品開発支援センター 玉屋 圭、井内 智美、江口 恵加

食品の衛生管理は、細菌の制御、異物混入対策、防虫防鼠、7S（整理・整頓・清掃・清潔・躰・洗淨・殺菌）、食品表示の管理（原材料・原産地、アレルゲン、食品添加物、栄養成分）、関連法令（食品衛生法、食品表示法、JAS法、健康増進法など）への対応など、多岐にわたります。また、食品製造の業態ごとに製造工程や衛生リスクも大きく異なるため、業態や現場環境に応じた食品衛生管理基準や改善指標の整備が求められます。

しかしながら、長崎県内の多くを占める小規模～中規模事業者では、専門人材や資源の制約から十分な対応が難しく、衛生管理の不備が品質のばらつきや賞味期限の短さにつながり、販路拡大の障壁となっています。

本研究では、こうした課題を解決するため、県内食品産業を対象に、業態に応じた食品衛生管理基準を明確化し、それに基づく指導マニュアルやチェックシートを作成・提供します。このことにより、事業者自身が主体となって改善を進められる品質管理技術を体系化し、食品衛生環境の向上と製品の付加価値向上を目指します。

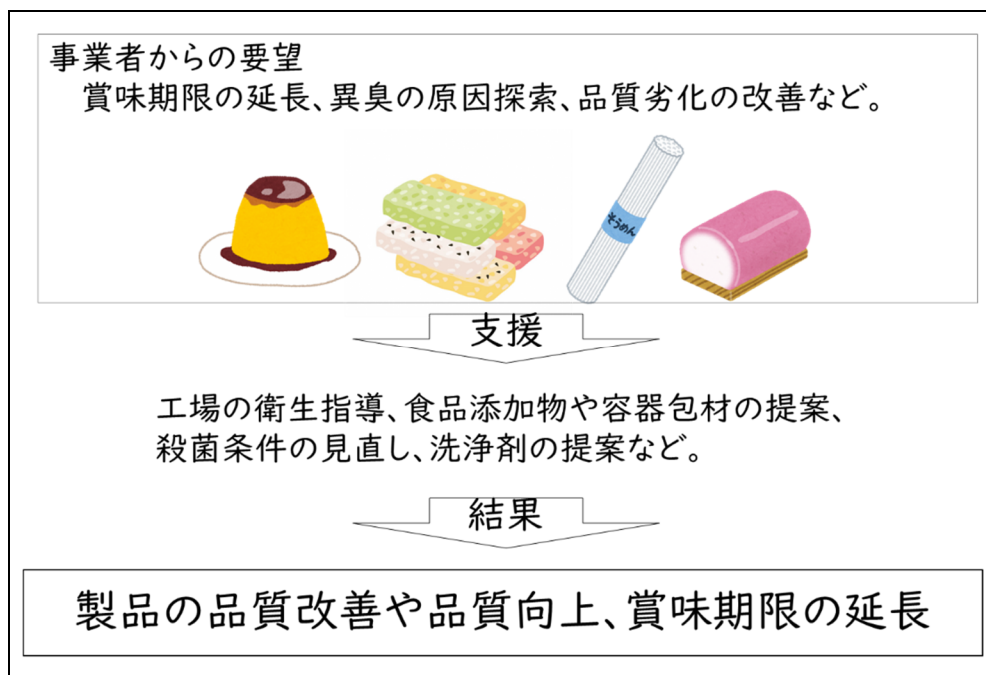


図 品質管理技術活用による付加価値向上の流れ

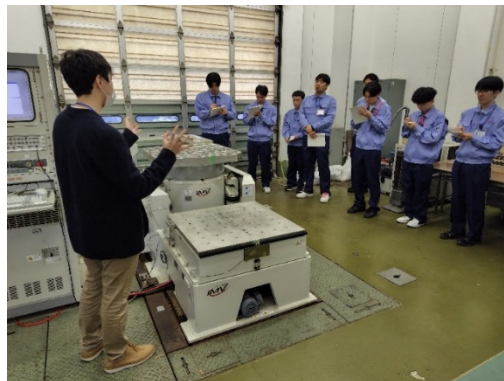
見学対応報告・研究キャラバン

➤ 見学対応報告【伸和コントロールズ株式会社】

4月14日（火曜日）、伸和コントロールズ株式会社の新入社員10名と引率の職員1名の方々が、新入社員研修の一環として当センターを視察見学されました。

まず、工業センターの概要について動画をご覧いただき、その後、振動試験装置、EMI計測システム、高精度三次元造形装置、高強度3Dプリンタ、シールドルーム等を中心に設備をご見学いただきました。

今後、工業技術センターをご活用いただくことをお待ちしております。



➤ 見学対応報告【大村高等学校文理探究科1年生】

6月15日（月曜日）、大村高等学校文理探究科1年生31名と引率の先生1名が来所されました。今回の訪問は、科学技術や身の回りの現象への興味・関心を高めるとともに、科学技術研究と地域社会との関わりについて理解を深めることを目的として実施されたものです。

当日は、はじめに工業技術センターの業務内容や研究テーマについて紹介した後、3Dデータと機械設計に関する講義を受講していただきました。その後、参加者は3班に分かれて施設内を見学しました。

見学では、万能試験機を用いた金属材料試験の実演をはじめ、デジタルマイクロスコープや電子顕微鏡による観察体験、3Dプリンタの見学などを行い、普段はあまり触れる機会のない試験設備に接していただきました。生徒の皆さんは熱心に説明に耳を傾けており、ものづくりや研究開発への関心を高める機会になったことと思います。



➤ 研究キャラバン [佐世保機械金属工業協同組合]

6月23日（火曜日）、佐世保機械金属工業協同組合（広田工業団地）で研究キャラバン（意見交換会）を実施しました。参加者は17名（協同組合企業8名、長崎県産業振興財団3名、工業技術センター6名）でした。

会議では、当センターの活動紹介、基盤技術部と応用技術部からのトピックス紹介に加え、長崎県産業振興財団からの助成事業や人材戦略に関する情報提供を行いました。その後の意見交換では、現場ニーズを踏まえた出張セミナーの開催や、当センターの研究開発への取組み内容などについての話題が中心となりました。

今後も、企業のニーズに寄り添ったきめ細かな技術支援を行ってまいります。



➤ 見学対応報告 [産総研触媒化学研究部門]

7月10日（金曜日）、産業技術総合研究所触媒化学研究部門の3名の方が当センターを来訪され、施設見学および意見交換会を行いました。

触媒化学研究部門では、触媒化学を基盤として、持続可能な開発目標（SDGs）やグリーントランスフォーメーション（GX）の達成に貢献する革新的触媒の開発、さらに基礎化学品・機能性化学品の新規製造法の提案などを通じて、社会課題の解決に向けた研究を推進しています。

当センターからの食品開発支援センターを含むセンター全体の業務内容をご説明した後、来訪者から触媒化学研究部門の取組についてご紹介いただきました。続いて、各種試験機器をご見学いただき、センターの取組に関する意見交換を行いました。

▼▼ 工業技術センターへのお問い合わせは、こちらまでどうぞ。 ▼▼

<https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>



➤ 見学対応報告 [長崎北陽台高等学校文理探究科2年生および福岡県立新宮高等学校理数科2年生]

7月14日(火曜日)に長崎県立長崎北陽台高等学校文理探究科と福岡県立新宮高等学校理数科から合わせて2年生の生徒30名、引率の先生2名が当センターを来訪され共同見学会を開催しました。工業技術センターにて実施している研究開発や技術支援内容を理解すること、また、試験分析の具体的な内容について学ぶことを目的としています。

はじめに当センターの業務内容について動画を用いて説明した後、約1時間半にわたり各試験機器などを見学していただきました。その後の質疑では、研究員が実施している研究テーマの内容や研究員になるための条件など、進路選択に関わる質問を多く受けました。



▼▼ 工業技術センターへのお問い合わせは、こちらまでどうぞ。 ▼▼

<https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>



新規事業（外部資金）の採択

当センターが参画する以下の4課題について、新規事業の採択がありました。

➤ 産業技術連携推進会議 地域オープンイノベーション力強化事業

課題名： 熟練技能の形式知化体系化手法、AIST法の活用及び機械加工現場への展開
～半導体製造装置向け精密部品のヘール加工技術の高度化～
参画機関： 国立研究開発法人産業技術総合研究所 次世代ものづくり実装研究センター、
同研究所 先進パワーエレクトロニクス研究センター、 同研究所 九州センター、
熊本県産業技術センター、 鹿児島県工業技術センター、
長崎県工業技術センター、 沖縄県工業技術センター
主機関： 国立研究開発法人産業技術総合研究所 九州センター
事業期間： 令和8年度
当所担当者： 工業材料・環境科 瀧内 直祐

➤ 経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業）

課題名： 船舶用大型液化CO₂輸送タンク鏡板製造の生産性向上のための曲面に適応した高品質自動溶接技術の開発
参画機関： 久保工業株式会社、 国立大学法人長崎大学、 長崎県工業技術センター、
ケービーソフトウェア株式会社
主機関： 久保工業株式会社
事業期間： 令和8～10年度
当所担当者： 工業材料・環境科 瀧内 直祐、 機械加工科 福田 洋平

➤ 経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業）

課題名： 世界初の海水での浸透圧発電を実現する浸透圧発電用膜モジュールの開発
参画機関： 協和機電工業株式会社、 国立大学法人長崎大学、 長崎県工業技術センター
主機関： 協和機電工業株式会社
事業期間： 令和8～10年度
当所担当者： 工業材料・環境科 重光 保博

➤ 経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech 事業）

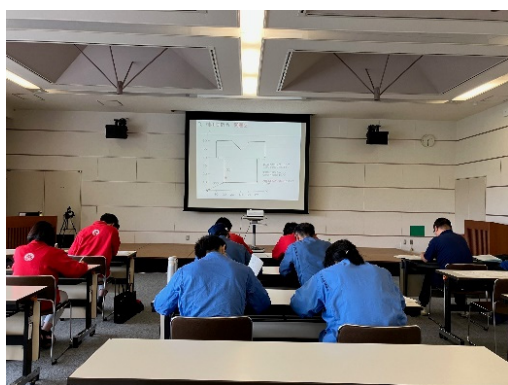
課題名： 海洋プラスチックゴミを再資源化した高機能型コンクリート系建材の製造技術の開発
参画機関： 兼子漁具株式会社、 国立大学法人長崎大学、 長崎県工業技術センター、
長崎県窯業技術センター
主機関： 兼子漁具株式会社
事業期間： 令和8～10年度
当所担当者： 機械加工科 小楠進一、 大田 剛大

➤ マシニングセンタ作業（初級）セミナー

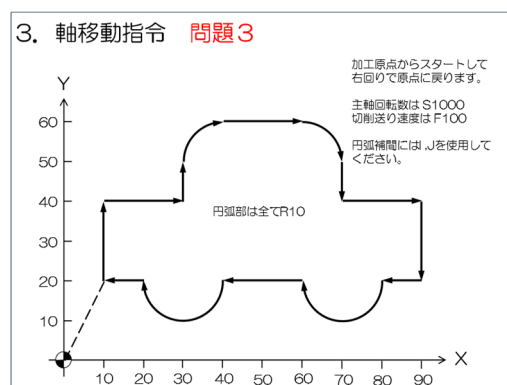
4月27日（月曜日）、工業技術センターにおいてマシニングセンタ作業（初級）セミナーを開催しました。新入社員や間接業務に携わる方への教育に活用していただくために企画したセミナーです。

これからマシニングセンタのオペレーターとして業務にあたる方を対象とした内容としており、午前①マシニングセンタとは、②マシニングセンタ作業基礎、③切削加工基礎について、午後はマシニングセンタ系の NC プログラムについて説明と演習を実施しました。午前、午後併せて4時間のセミナーで、マシニングセンタ作業の基礎にしっかりと取り組んでいただきました。今回の受講者は9名でした。

（担当 福田 洋平）



演習の状況



NC プログラム演習問題

➤ 金属材料強度試験セミナー（第1回・第2回）

5月27日（水曜日）、工業技術センターにおいて金属材料強度試験セミナーを開催しました。

金属材料強度試験および材料力学に関する講義を実施した後、材料試験室において引張試験実習、かたさ試験実習および衝撃試験のデモを行いました。引張試験実習においては、炭素鋼、ステンレス鋼およびアルミ合金の引張試験を行いました。

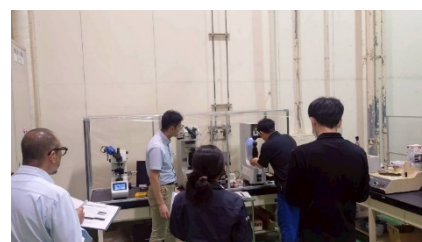
基礎的となる重要な内容であり、他の社員にもぜひ受講させたいとのご意見をいただきました。申込多数のため、午前と午後の2回に分けて実施し、受講者は延べ16名でした。（担当 福田 洋平）



講義の状況



引張試験実習



かたさ試験実習

➤ デジタル塾（3D データ活用セミナー）

6月8日（月曜日）、デジタル塾の一環として「3D データ活用セミナー」を開催しました。

長崎職業能力開発促進センター（ポリテクセンター長崎）から訓練課職業能力開発指導員の加藤様、井手様、松尾様3名をお招きし、「設計力を高める 3DCAD セミナーのご案内」というテーマで講演していただきました。講演では、ポリテクセンター長崎が在職者支援のために実施しているセミナーの紹介と、機械設計、住宅設計、溶接技能講習それぞれの分野での 3D データ活用法について説明をしていただきました。

次に「3D データの活用（設計から試作まで）」というタイトルで、工業技術センターが保有している 3D データ関連設備の紹介と、無料で使用できる 3DCAD ソフトである FreeCAD を用いたの部品設計、シミュレーション、3D プリンタを用いた試作まで一連の操作方法をご紹介しました。

当日は 18 名が参加し、様々な分野での 3D データの活用や、無料の 3DCAD ソフトで実施可能なコンピュータシミュレーションに興味を持って頂きました。今後、現場で活用していただくことを期待します。

（担当 田口 喜祥）



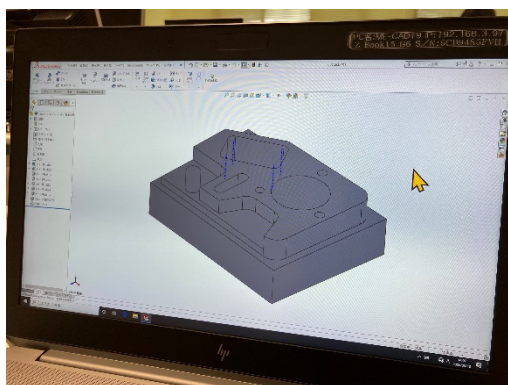
※「FreeCAD」は、FreeCAD Project Association (FPA)の登録商標または商標です。

➤ CAD/CAM 入門セミナー

6月30日（火曜日）、長与町にある長崎高等技術専門校において CAD/CAM 入門セミナーを開催しました。本セミナーは、対話型プログラミングから CAD/CAM 活用に移行したいという県内企業の要望を受けて企画したものです。

入門編と位置づけ、3DCAD も CAM も使用したことがないという方に向けた内容で、「SOLIDWORKS による 3D モデルの作成」、「SolidCAM による 2D モデル加工の設定」、および「SolidCAM による 3D 加工の設定」について実習しました。受講者は3名（定員）でした。冬ごろに追加開催を予定しています。

（担当 福田 洋平）



課題モデル



講義状況

※「SOLIDWORKS」は、Dassault Systèmes SolidWorks Corp.の登録商標または商標です。

※「SolidCAM」は、SolidCAM Ltd.の登録商標または商標です。

➤ 三次元測定機（入門）セミナー

7月22日（水曜日）および7月28日（火曜日）に、工業技術センターにおいて三次元測定機（入門）セミナーを開催しました。

入門編と位置づけ、「三次元測定機の導入を検討している方」、「三次元測定の実務概要を知りたい方」に向けた内容として、装置の起動から座標系設定・基本要素（点・線・円・面）測定まで実習しました。

三次元測定機は難しそうな印象をもたれる方が多いですが、受講者の皆さんには、簡単な測定なら一人でやっていけそうだと感じてもらうことができました。

定員3名で2回実施し、受講者は延べ4名でした。

（担当 福田 洋平）



実習状況



使用装置

▼▼ 工業技術センターへのお問い合わせは、こちらまでどうぞ。 ▼▼

<https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>



5月～8月の行事

5月	15日	長崎県産業ネットワーク推進会議	(長崎市)
	19日	長崎県工業連合会 定期総会・創立10周年記念式典	(長崎市)
	21日	伝統と技術創造をつなぐ酒造り支援ミーティング	(福岡市)
	22日	令和8年度九州酒造研究会総会並びに第1回例会	(久留米市)
	26日	佐世保機械金属工業協同組合第55回通常総会	(佐世保市)
	27日	金属材料強度試験セミナー	(工業技術センター)
	28日	溶接協会定時社員総会及び第1回役員会	(大村市)
6月	3日	九州・沖縄地域産業技術連携推進会議企画調整会議	(福岡市)
	5日	九州大学伊都キャンパス及びハイトレック施設の視察	(福岡市)
	8日	デジタル塾(3Dデータ活用セミナー)	(工業技術センター)
	15日	見学受入れ[大村高等学校文理探究科1年生]	(工業技術センター)
	17日	JAS審査員及び表示指導員合同研修会	(熊本市)
	18日	長崎県発明協会定時総会	(工業技術センター)
	18日	長崎県情報産業協会講演会・産学官交流会	(長崎市)
	18日	九州連携CAE研究会	(web会議)
	23日	研究キャラバン[佐世保機械金属工業協同組合]	(佐世保市)
	26日	長崎県食料産業クラスター協議会令和8年度通常総会	(長崎市)
	30日	CAD/CAM入門セミナー	(長与町)
7月	9～10日	九州・沖縄地域公設試及び産総研九州センター研究者合同研修会	(佐賀県)
	10日	産業技術総合研究所触媒化学研究部門 来所	(工業技術センター)
	14日	見学受入れ[長崎北陽台高等学校文理探究科2年生および福岡県立新宮高等学校理数科2年生]	(工業技術センター)
	22日	三次元測定機(入門)セミナー	(工業技術センター)
	22～23日	第14回福岡県酒類鑑評会 日本酒	(久留米市)
	23日	長崎県との製造業振興に関する意見交換	(長崎市)
	28日	三次元測定機(入門)セミナー	(工業技術センター)
	29～30日	第14回福岡県酒類鑑評会 本格焼酎	(久留米市)
	31日	KDK長崎成長産業連携セミナー	(長崎市)
8月	4日	県央産直ネット総会・研修会	(大村市)
	6日	デジタル塾(稼働監視のためのRaspberry Pi 演習)	(工業技術センター)
	6～7日	第99回公立鉾工業試験研究機関長協議会総会	(佐賀市)
	8日	大村市子ども科学館まつり	(大村市)
	19日	三次元測定機(初級)セミナー	(工業技術センター)
	21日	加工食品技術セミナー(機能性表示食品届出に関する勉強会)	(工業技術センター)

主な技術支援の件数(5月～7月)

	5月	6月	7月
技術相談	48件	59件	33件
依頼試験	125件	137件	278件
設備開放	61件	85件	90件

皆様のご利用をお待ちしております。

令和8年度 研究成果発表会の開催について(ご案内)

標記の研究成果発表会を開催しますので、ご案内いたします。

本発表会では、令和7年度に終了した経常研究のポスター形式の成果発表に加え、発表課題に関する試作品や研究現場の見学も含む見学ツアーを実施します。ご参加いただく皆様が発表者と自由な雰囲気でのディスカッションすることができます。

開催案内の詳細および参加申込み方法は、工業技術センターのwebサイトの該当ページ：

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/kogyo-kagakugijutsu/kogyo-kagakugijutsu/zyouhouhasshin/kenkyuuseikahappyoukai/>
にて、後日ご案内します。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日時 令和8年11月5日(木) 13:30～16:00(受付開始12:45)
2. 場所 長崎県工業技術センター2階 大会議室(大村市池田2丁目1303-8)
3. 内容

- (1) 開会挨拶
- (2) 長崎県工業技術センターの取り組みについて
- (3) 研究成果発表：ポスターセッション



《発表課題》

- ① 3D-CADとシミュレーションを用いた設計変更技術適用による機械設計の高度化

基盤技術部 機械システム科 主任研究員 西村 学

本研究では、3D-CADを用いた設計を進める上で必要なシミュレーションの解析条件を構築した。また、この条件を用いた設計試作品を使って実験を行い、その実測値と解析値の比較により構築した条件の妥当性を評価した。

- ② レーザーによる異材樹脂溶着の高品質化に関する研究

基盤技術部 電子情報科長 田中 博樹

本研究は、レーザーによる異材樹脂溶着の接合強度を、多品種少量生産時にも適用可能な方法で改善することを目的として実施した。実験の結果、考案した前処理を施して溶着した試験片の方が、前処理をせずに溶着した試験片よりも接合強度が高くなることを確認した。

- ③ バイオマス系弾性高分子の開発とシート材料への応用

次長 市瀬 英明

環境調和型材料開発の一環として、バイオマス由来の原料を用いたポリウレタンエラストマーを試作した。エラストマーの機械的特性に及ぼす原料構造や配合比の影響を明らかにした。また、シートを成形し粘着材としての実用特性を評価した。

- ④ 光学式ガスセンサーの開発

応用技術部 工業材料・環境科長 田尻 健志

テーパー型光ファイバー上にシリカ微小球を配置したガス検知センサーを開発した。開発したセンサーに水素ガスを充填したところ、微小球に固有の周期的な共振ピーク波長の変化が観測された。この結果、本手法が迅速な水素ガス検知に有効であることを確認した。

- ⑤ 非金属脆性材料の精密加工に関する研究

応用技術部 機械加工科 主任研究員 福田 洋平

半導体製造装置部品に使用される非金属脆性材料の加工技術の高度化を目的とし、単結晶シリコンの切断加工、平面研削加工、および穴あけ加工のノウハウ構築に取り組んだ。穴あけ加工では最大クラック長を20 μm 以下に抑え、496穴の連続加工を達成した。

⑥ 県内の製造現場に即した鋳物砂性状の管理手法に関する研究

応用技術部 機械加工科 主任研究員 大田 剛大

鋳物砂は繰り返し使用されることで劣化し、鋳造欠陥や製品品質の低下を招く。そのため、砂品質の定量的な管理手法の構築が求められている。本研究では、管理項目の絞り込みと鋳造欠陥判別モデルの構築・検証を行い、現場で活用しやすい管理手法の開発に取り組んだ。

⑦ 県産地域資源に含まれるD-アミノ酸の解析と含有食品の開発

食品開発支援センター センター長 玉屋 圭

近年、D-アミノ酸（DA）の持つ甘味などの特徴的な味、美肌効果などの機能性について注目が集まっている。本研究では、高速液体クロマトグラフ装置を使用したDA分析法を用いて、県産の発酵食品に含まれるDA含量について検討したので報告する。

（４）見学ツアー

コース１： 機械システム分野、電子情報分野

コース２： 工業材料・環境分野、機械加工分野

コース３： 食品開発支援分野、食品加工分野

令和7年度事業報告および令和7年度研究報告の発刊

令和7年度の事業報告および研究報告を公表しましたので、お知らせします。それぞれの報告は、次のURLからご覧いただけます。

令和7年度事業報告：

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/kogyo-kagakugijutsu/kogyo-kagakugijutsu/zyouhouhasshin/jigyohoukokusyo/>

令和7年度長崎県工業技術センター研究報告：

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/shigoto-sangyo/kogyo-kagakugijutsu/kogyo-kagakugijutsu/zyouhouhasshin/kenkyuhoukokusyo/>



工業技術センターに係る人事異動（令和8年6月30日 付け）

新所属 職名	氏 名	旧所属 職名
退職	兒玉 勝敏	機械システム科 主任研究員

新規導入設備

【装置名】 卓上型缶詰巻締め機

【型 式】 木村エンジニアリング株式会社製 ミニシーマ MV4HF（真空ポンプ付属）

【仕 様】

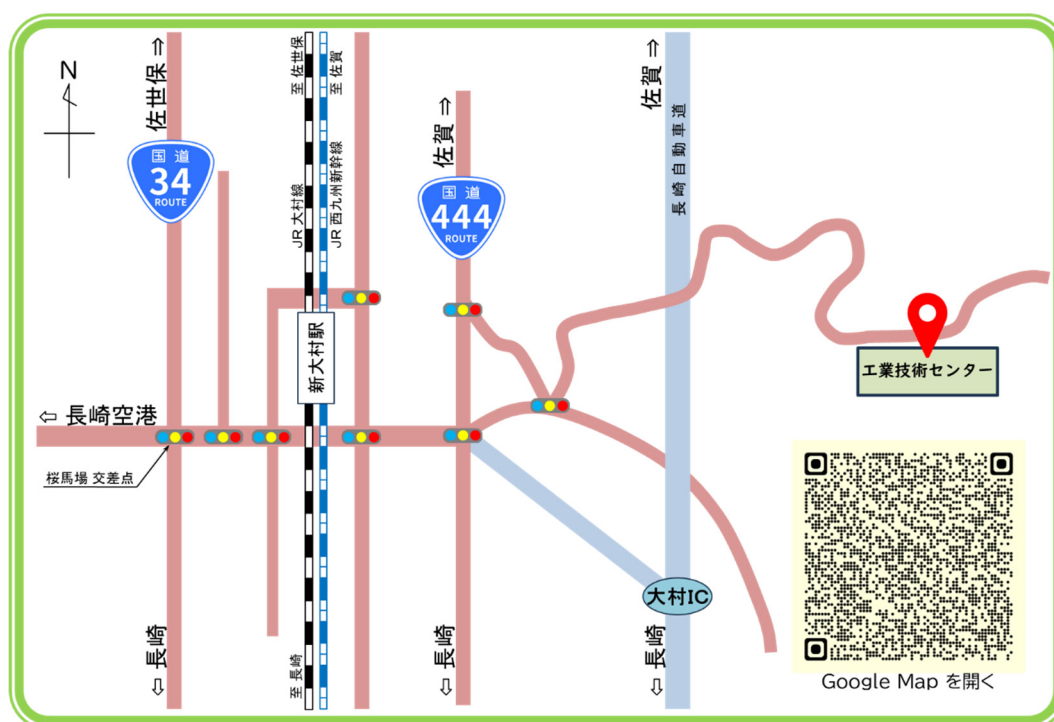
- ・巻締め方式：二重巻締め（真空及び大気圧下）
- ・巻締め時間：約 30 秒
- ・適用缶種： 4号缶、5号缶、6号缶、平3号缶

【用 途】 本装置は缶詰製品の試作に使用する卓上型巻締め機です。食品を充填した缶容器に蓋をセットし、二重巻締め方式により密封します。巻締め後はレトルト装置により殺菌処理を行います。操作は缶容器をセットして安全を確認し、スタートボタンを押すだけで自動巻締めが行われます。

【財 源】 令和8年度電源立地地域対策交付金

【使用料】 220 円／1 時間（令和8年10月1日から供用開始）





長崎県工業技術センターへのアクセス



ホームページ



お問合せサイト



CHALLENGE 掲載サイト

長崎県工業技術センター

〒856-0026 長崎県大村市池田 2丁目 1303番地 8

TEL 0957-52-1133

FAX 0957-52-1136

URL <https://www.pref.nagasaki.jp/organization/sangyorodobu/kogyo-c/>

問合せ <https://apply.e-tumo.jp/pref-nagasaki-u/offer/userLoginDispNon?tempSeq=6906&accessFrom=>